

米オスプレイ、飛行再開へ

米報道 週内にも日本に説明

鹿児島県屋久島沖で昨年11月末に起きた墜落事故を受け、AP通信は1日、米軍が約3カ月間続けていた輸送機オスプレイ全機の飛行停止を「来週」（3日からの週）にも解除する、と報じた。米軍幹部が来日し、日本政府に飛行再開に向けた

計画を説明するとい。

AP通信が複数の米高官の話として伝えたところによると、オースティン国防長官が1日、空軍

官の話として伝えたところによると、オースティン氏が説明を求めていたという。

スプレイを使用していることなどから、オースティン氏が説明を求めていたという。

屋久島沖の事故は昨年11月29日に発生し、搭乗していた米空軍の8人全員が死亡した。米軍は、初期の調査で機材の不具合が墜落の原因だった可能性を指摘し、12月6日、米軍全体でオスプレイの飛行を停止する異例

複数の米高官が述べているとい。

米空軍特殊作戦司令部は1日の取材に「飛行再開の時期は協議中で、現時点で提供できる情報はない」と答えた。

屋久島沖の事故は昨年11月29日に発生し、搭乗していた米空軍の8人全員が死亡した。米軍は、初期の調査で機材の不具合が墜落の原因だった可能性を指摘し、12月6日、米軍全体でオスプレイの飛行を停止する異例

飛行再開に先立って米海軍航空システム司令部のトップが来日し、防衛省と日本政府に説明する予定。説明までは日本での飛行は再開しないとの対応に踏み切った。

（ワシントン＝下司健一子）

米空軍は2月20日の声明で「現時点では、機材の不具合が起きたことは判明しているが、原因是特定されていない。不具合の原因を解説するため、工学的試験と分析が進行中だ」と説明した。海軍も2月初旬の取材に「乗員の安全と航空機の信頼性を考慮したりリスク軽減策と管理体制を検討している」と答えていた。追加の安全点検や運用方法の見直しなどを検討してきたとみられる。